

イタドリの品種選抜に関する研究

(イタドリの収集と試験用苗の育成)

森林経営課：黒岩宣仁・山崎敏彦・渡辺直史

■ 目的

高知県では特有の食文化として知られるイタドリの地産外商に向けた生産と加工販売に取り組んでいる。これまでイタドリの供給は天然採取が主であったが、食の安全性や品質を保つためには加工の目的に合った優良系統の栽培化が必要である。本研究は県下全域からイタドリを収集保存し、県内の栽培に供する優良系統を選抜することを目的とする。

本年度はイタドリの収集と挿し木による試験用苗の育成を行ったので報告する。

■ 内容

2021年の2月～4月に国有林を中心にイタドリの生育調査を実施し、茎の太さ、長さ、数、皮の剥ぎやすさなどを選定基準として採集を行った。採集対象個体は原則として最大根元径が20mm以上とした。採集したイタドリには個体番号を付け、採集者、採集地点（地名、林道名、緯度経度、標高）、生育立地、形状（茎数、上位3本までの根元径）、雌雄、生態写真などを記録した。場内に約10aの育成保存圃場を整備し、ラベルをつけて植え付けた。さらに6月に収集した全親株から挿し木苗を増殖した。一方、5月にイタドリの品種選抜に関する検討会（以下、検討会）を開催し、生産加工の関係者や育種の専門家などから意見を聞いて品種選抜の方向性（選定基準等）について検討した。

■ 成果

図1にイタドリの採集地点を示し、写真1に採集状況を示した。調査は2021年1月26日から4月30日まで実施し、合計で61地域152個体を収集した。図2と図3に示すとおり収集したイタドリは最大根元径が25-30mmの個体が多く、茎の数は20本の個体が多かった。最大根元径と茎の本数の関係は図4に示すとおりである。また、図5に示すとおり、生育地はニホンジカの食害が及ばない林道の切土法面や路肩が多く雄株と雌株の割合はほぼ等しい数となった。

写真2に検討会の様子を、写真3に挿し木苗の育成状況を示す。検討会を5月に開催し、協議の結果、品種選抜の選定基準は、①皮の剥ぎやすさ、②収量（根元15mm以上の新茎の本数）、③早晚性とし、その他、茎の中身の色が鮮やかな緑であることに決定した。

■今後の計画

イタドリ収穫期に2回目の検討会を開催、採集した親株の中から選定基準に照合して優良な30株程度を一次選抜する。次に一次選抜株の挿し木苗を試験圃場に植え付けて（30系統各10株計300株）3年間栽培し、芽出しの時期、15mm以上の茎数、茎の形状（太さ、長さ）、皮の剥ぎやすさなどを計測する。一次選抜した親株はいったん掘り取り、地下茎が這出ないように仕切り板で囲いをして高植えにして育成保存する。

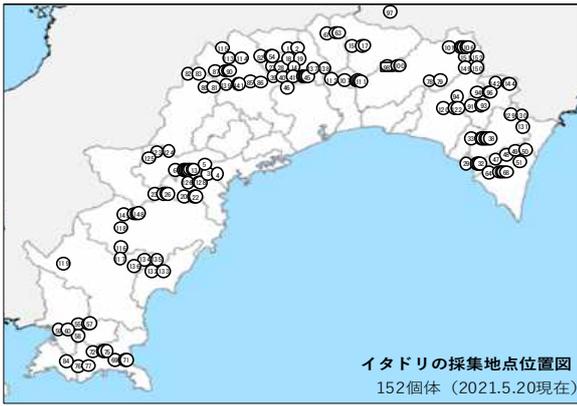


図1 イタドリの採集地点位置図



写真1 採集状況

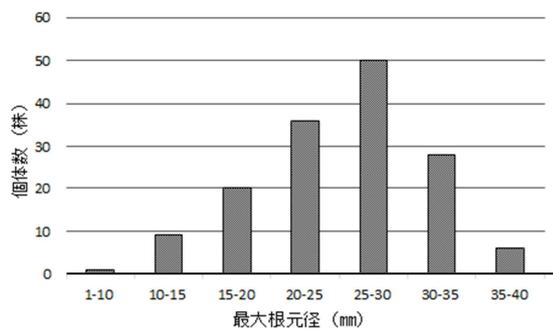


図2 採集したイタドリの最大根元径

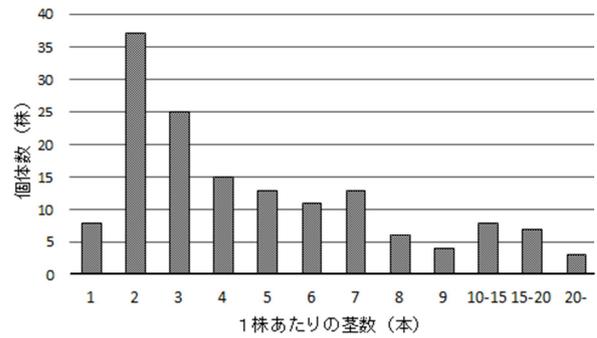


図3 採集したイタドリの茎数

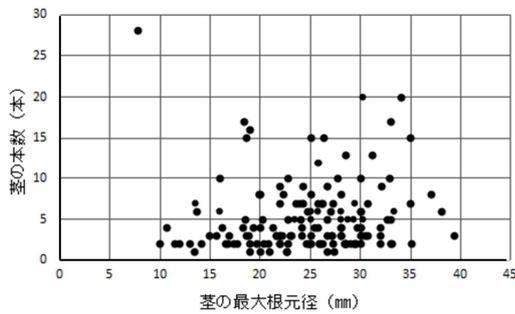


図4 茎数と最大根元径

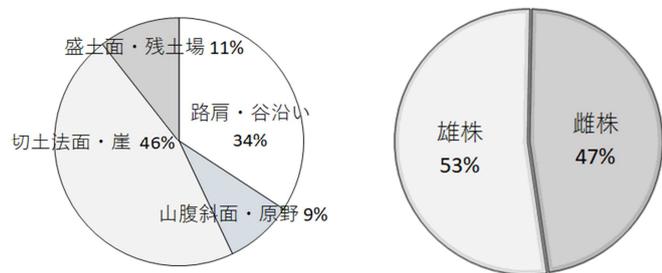


図5 採集したイタドリの生育地と雌雄の割合



写真2 育成保存圃場での検討会



写真3 試験用挿し木苗の育成